

対ガボン共和国 事業展開計画

2019年 4月 現在

基本方針 (大目標)	経済開発と社会開発のバランスの取れた国造り支援
---------------	-------------------------

重点分野 1 (中目標)	社会・生活面の向上と格差是正											
	【現状と課題】 初等教育の就学率は97%に達している反面、教室や教員の不足等の影響で留年率は40%と高く、教育環境の整備が急務である。高校進学率が40%と低く進学者数の減少が顕著であり、大学受験資格(BAC)合格者の平均年齢は22.6歳と、順調に進学した場合と比較して5歳も年齢が高くなっている(2016年 教育・職業訓練・雇用プログラム)。また、2012年より就学前教育が義務化されたが、就学前教育の普及率は35.5%(2015年 UNICEF)と依然として低い。					【開発課題への日本の対応方針】 我が国の教育協力政策である「平和と成長のための学びの戦略」を踏まえ、同国の「サービス産業育成計画」、「人間開発戦略」及び「教育・職業訓練・雇用プログラム」を支援するため、教育、ICT、保健、コミュニティ開発分野への技術協力等を通じて、社会・生活面の向上と格差是正を支援する。						
開発課題 1-1 (小目標) 教育/ICT/コミュニティ開発	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
	教育・雇用改善プログラム	①校舎の増築、改修を通じた学習環境の改善 ②教授法の見直し ③教育カリキュラムの見直し	教育/コミュニティ開発分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度		
			教育/ICT/コミュニティ開発分野の青年海外協力隊・シニア海外ボランティア	JOCV/SV								
			教育/ICT/コミュニティ開発分野における研修	課題別研修他								
											0.31	
開発課題 1-2 (小目標) 保健	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
	国際レベルの医療提供プログラム	①医療従事者の養成・育成及び医療従事者の管理システムの構築 ②医療インフラの整備	保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度		
			公衆衛生上問題となっているウイルス感染症の把握と実験室診断法の確立プロジェクト	科学技術								
			保健分野の青年海外協力隊・シニア海外ボランティア	JOCV/SV								
保健分野における研修			課題別研修他									

【現状と課題】
国家の優先的な課題として、保健医療システムの構築を挙げているが、油価下落に伴う政府予算の逼迫により十分な措置が取られていない。国内では保健医療の地域間格差が存在し、医療施設及び医療従事者の充実が課題となっているほか、医療環境の改善を講じる必要がある。また、ガボンの1歳未満死亡率は35.1%(2017年世銀)と母子保健の改善が喫緊の課題となっている。

【開発課題への日本の対応方針】
社会格差の是正に貢献するため、保健分野における青年海外協力隊・シニアボランティアの派遣及び草の根・人間の安全保障無償資金協力等のスキームを通じた支援を実施し、基礎医療等へのアクセスを向上させる。また、地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)を通じて医療の基礎研究のレベルアップを支援する。また、母子保健、障がい者支援、臨床検査機材分野への支援を中心に取り組む。

重点分野2 (中目標)	環境保全																				
開発課題2-1 (小目標) 生物多様性保全/地球温暖化・気候変動対策	【現状と課題】 ガボンは地球の片肺ともいわれるコンゴ盆地の一角に位置し、国土の約85%が森林に覆われている。この森林及び国内13の国立公園には、多種多様な動植物が見られ、世界有数の生物の聖域となっている。これらの多様な生物を保護しつつ、農林水産分野で12万5千人の雇用を創出させる目標をガボン政府は掲げており、保護地域における保護と開発の調和が課題となっている。				【開発課題への対応方針】 同国は、「緑のガボン」政策を通じ、生物多様性保全、地球温暖化・気候変動対策及びエコツーリズムの振興を重点課題としており、技術協力等を通じてこれらの取組を支援する。																
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考									
	生物多様性・森林保全プログラム	①インベントリーシステムを通じた森林資源の保存 ②エコツーリズム開発 ③生物多様性保護	ムカラバ地域におけるインタープリテーション手法を用いた地域参加型エコツーリズム開発	草の根技協	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度											
	再生可能エネルギープログラム	①クリーンエネルギーの活用	太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画	無償	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	6.70										
			エネルギー分野における研修	課題別研修他	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度											
重点分野3 (中目標)	産業多角化の推進																				
開発課題3-1 (小目標) 農林水産開発/官民連携強化	【現状と課題】 ガボンは産油国であるため、国民一人あたりのGNIは高水準にあるものの、多くの食料品は海外からの輸入に依存しており産業の多角化が課題である。そのため同国政府は農業、畜産業、水産業の増産計画を策定。また、パーム油や水産物の加工業振興も計画され、産業多角化が期待されている。				【開発課題への対応方針】 農業、農作物加工、水産業、水産加工分野への技術協力等を通じて同国の重視する産業多角化を支援する。また、同国は経済パートナーの多様化に積極的に取り組んでおり、官民連携を通じた民間企業支援の可能性を追求し、産業多角化に貢献する。																
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考									
	食料安全保障プログラム	①農業生産性の向上 ②加工水産業の改善 ③養殖振興 ④農水産業での官民連携の強化	零細漁業振興アドバイザー	個別専門家	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度											
		農業・水産分野の青年海外協力隊・シニア海外ボランティア	農業・水産分野の青年海外協力隊・シニア海外ボランティア	JOCV/SV	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度											
		アフリカの若者のための産人育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)「修士課程及びインターンシップ」プログラム	アフリカの若者のための産人育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)「修士課程及びインターンシップ」プログラム	国別研修	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度											
		農業・水産分野における研修	課題別研修他	2018年度以前	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度												

【凡例】 「協準」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」(=課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(=青年海外協力隊)、「SV」(=シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(=以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(=水産無償資金協力)、「食糧援助」(=食糧援助)、「一般文化」(=一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(=草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(=緊急無償資金協力)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(=円借款、海外投融資)、「情報収集調査」(=基礎情報収集・確認調査)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協力スキーム)、「中小企業支援」(=中小企業海外展開支援事業「基礎調査」、「案件化調査」及び「普及・実証事業」、並びに中小企業連携促進基礎調査)、実務「——」(=実施期間)、破線「- - - -」(=実施予定期間)